医療法人社団和敬会　谷野呉山病院
×
龍谷富山高等学校

フィールドスタディ事例

株式会社マイナビ　Locus運営事務局

龍谷富山高等学校

フィールドスタディ実施概要

実施日：2025年7月9日

参加生徒数：2年生　約254名

参加企業数：27社

概要

●医療法人社団和敬会　谷野呉山病院様について

【事業内容】
医療サービス（精神科、心療内科、内科）

【従業員】
261人（法人全体288名）※ 2025年4月時点

●フィールドスタディ概要

◆実施日　　：2025年7月9日
◆参加生徒数　：10名
◆実施形式　　：企業訪問型
◆企業の参加人数：5名（+理事長が冒頭にご挨拶）
◆キーワード　　：健康・医療／福祉・介護／食

●今回フィールドスタディ受入を決めた理由

はじめは、高校とのつながりを持ちたいという思いから参加を決めました。実際に生徒たちと関わる中で、こちらが学ばせてもらうことも多く、予想していなかったような気づきや成果が得られました。

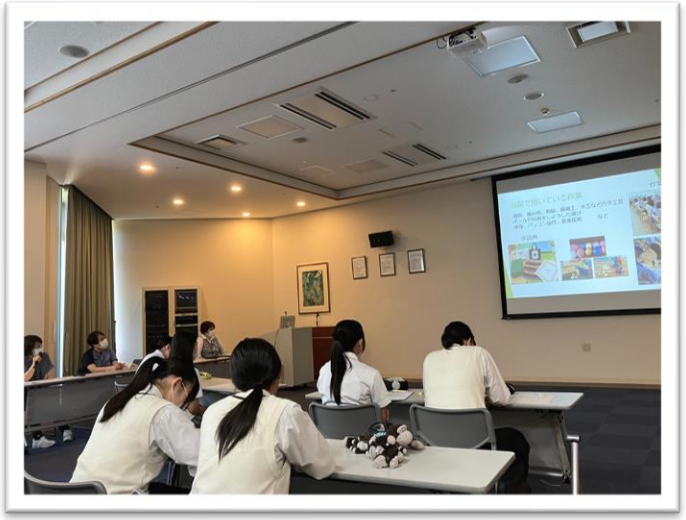
●フィールドスタディで高校生に伝えたいこと

進路がまだ決まっていない生徒には「関心のあることをいろいろ経験してみてほしい」と伝えたいです。

また、フィールドスタディで社会人と話をして、自分の視野を広げたうえで、将来について考えてもらえたら嬉しいです。

実施スケジュール

挨拶 5分	自己紹介 10分	病院紹介 30分	職種紹介 （管理栄養士･調理師／作業療法士／精神保健福祉士／看護師） 45分	事前質問への回答 10分	休憩 5分	病院見学 20分	座談会 20分	写真撮影 5分



実施内容詳細

●自己紹介

①担当職員からの自己紹介
名前/入社年度/所属部署/担当している業務内容/
取得している免許・資格/最近ハマっていること/高校時代の夢

最近ハマっていることや高校時代の夢を話し自己開示を行うことで、一人ひとりのパーソナリティが伝わり、生徒との距離が縮まるきっかけになっていました。

②生徒一人ひとりの自己紹介
名前/今ハマっていること

生徒の話に対して担当職員の方々が深掘りの質問をしてくれることで、安心感が生まれ、生徒も自然と自己開示しやすくなりました。「興味を持って聞いてくれている」と感じられることで、対話がより豊かになり、生徒もリラックスした様子で話すことができていました。

●病院紹介

まず初めに、「病院とは何か」という基本的な説明から始めました。
病院の定義や、診療科の種類など、
医療機関としての役割や機能について理解を深める内容でした。

続いて、谷野呉山病院についての紹介が行われました。
→概要/特徴・強み/サプライチェーン（社会とのかかわり）/チーム医療など

病院全体の仕組みから、谷野呉山病院の具体的な取り組みまで、
段階的に説明が進められ、
生徒たちにも理解しやすい構成となっていました。

高校生にも伝わりやすいように、難しい言葉はできるだけ使わず、使う場合はわかりやすく補足を入れるなどの工夫がされていました。
また、生徒に声をかけながら説明を進めることで、
集中力が途切れないように配慮されていました。

実施内容詳細

●職種紹介

病院内の多様な職種について、
それぞれの担当者が自身の業務内容を紹介しました。
医療現場にはさまざまな職種が存在し、それぞれが専門性を
活かしながら連携し、１人の患者様を支えていることが伝わる内容
となっていました。
職種ごとの役割や協力体制を具体的に知ることで、
生徒たちにもチーム医療の重要性がわかりやすく伝わっていました。

管理栄養士・調理師の紹介では、
写真を多く活用し、実際の患者様に
提供する食事などを見せていました。

作業療法士の紹介では、
実際の業務内容を体験できる活動として
「風船遊び」を実施しました。

●良かったポイント

現場の様子を直接見せることが難しい中で、
写真を多く活用することで、病院の雰囲気や
職場の空気感が伝わるよう工夫されていました。

精神科に対して抱かれがちなマイナスイメージを和らげるため、
実際のエピソードや仕事のやりがいについて具体的に紹介し
ていただきました。
職員の方の言葉を通じて、精神科医療の意義や魅力が
生徒にも自然に伝わる内容となっていました。

体験できる活動を取り入れることで、生徒たちは身体を動かし
ながら、この仕事がどのように患者様の心身の回復を支え
るのかを、楽しみながら理解することができました。

実施内容詳細

●病院見学

病院見学は、生徒を5名ずつ2グループに分けて実施されました。
患者様のプライバシー保護の観点から
入室が難しいエリアについては、部屋の外側からの見学とするなど、
配慮のある形で進められました。

見学を行うことで、生徒たちは精神科病院の環境や働く人々の様子を目で見て体感することができました。
この体験により精神科に対するイメージが柔らかくなり、理解が深まるきっかけとなりました。

●座談会

生徒5名と職員2名による少人数グループで実施されました。
座談会では、生徒の将来の夢や進路に関する話題を中心に、
精神科医療の現場で働く職員が、
自身のキャリア選択や仕事のやりがいについて語りました。
また、精神科における「人との関わり方」や「患者様との信頼関係の築き方」など、日々の実践に基づいたリアルな話が共有され、
生徒たちは医療職の本質に触れる貴重な機会となりました。

座談会では、一方的な質問回答ではなく、「将来やりたいことはある？」などの質問を通じて、生徒の考えや気持ちを引き出していました。その結果、生徒たちは徐々に心を開き、自分の悩みや不安についても話すなど、
深い対話が生まれていました。

実施内容詳細

●参加生徒の声

参加した生徒の声をご紹介します！

精神科の仕事はたくさんの方と向き合っていくお仕事で、
大変そうだなと思った半面、やってていい事も
たくさんあるお仕事なんだなと思いました。

話すのが苦手な私ですが、話を広げてくださり
ありがとうございました。
自分は1つの道しか見てなかったですが、
話を聞いて、色んな選択肢があることが分かりました。

精神科に少しマイナスなイメージを持っていましたが、
こんなに笑顔で優しくて素敵なスタッフさんたちが
一緒に居てくれるなら怖くないなと思いました。

●フィールドスタディを通じて企業が感じた成果

・将来的な雇用のきっかけづくり
生徒に病院のことを知ってもらえたこと、病院のネガティブな
イメージを少しでも払拭できたことがよかったと感じています。

・高校生との関わり
普段接点が少ない高校生と交流することで、職員も刺激を受けました。「寄り添うってどういうこと？」など、高校生からの率直な質問により、改めて自分たちの仕事の意味を考えさせられる場面がありました。想像以上に真面目に話を聞き、感じたことを素直に
言葉にする姿が印象的で、職員側にも学びが多い時間となりました。

運営事務局のコメント

フィールドスタディでは、コミュニケーションが得意でない生徒もいる中で、
職員の方が積極的に声をかけ、生徒の話に耳を傾ける姿勢が印象的でした。
問いかけを通じて、生徒の気持ちを引き出し、徐々に心を開いて悩みや将来について話すようになる場面も見られ、双方的なコミュニケーションの重要性を改めて
感じたフィールドスタディでした！

エンケイ株式会社
×
静岡県立浜松湖南高等学校

フィールドスタディ事例

株式会社マイナビ　Locus運営事務局

静岡県立浜松湖南高等学校

フィールドスタディ実施概要

実施日：2023年12月19日 9時～12時

参加生徒数：1年生 約329名

参画企業数：31社

概要

●エンケイ株式会社様について

業種：自動車・輸送用機器
従業員：8,076名
（国内1,318名・海外6,758名）
※2023年12月時点

●フィールドスタディ概要

実施日：2023年12月19日
参加生徒数：12名
実施形式：企業訪問型
参加社員数：3名
キーワード：グローバル・ダイバーシティ
ものづくり

●今回フィールドスタディ受入を決めた理由

・自社の認知度向上と学生との接点

高校生と接点を持つことで、

今の高校生の関心や興味を

より深く知ることのできる機会だと思った。

このフィールドスタディを通して、

高校生が将来の進路選択をする際に

良い影響を与えることができたら嬉しい。

実施スケジュール

自己紹介 10分	本日の目的と 質問整理 20分	会社説明 50分	職場見学 20分	座談会 30分	まとめ感想 20分

実施内容詳細

●自己紹介
…担当者、参加生徒それぞれ自己紹介

趣味や最近あった良いこと・悪いこと、などを
一緒に交えながら自己紹介。
会話のキャッチボールをしながら生徒1人1人を深掘り。
共通の趣味が見つかったり、
生徒の緊張も和らいで、距離が縮まった印象◎

●本日の目的整理
…ワークシートを使って目的や質問の整理

最初に学びたいことや、事前に考えてきた質問を
生徒に整理してもらうことで、
フィールドスタディの目的を明確にしてからスタート。

●会社説明・職場見学
…事業内容、歴史、オフィス見学など

説明しながらクイズを出したり、生徒へ問いかけ。
全員が話しやすい雰囲気を作ることで、
より一生懸命に考えて意欲的な参加へと繋がった。
ホイールの持ち比べ体験では、生徒が軽さを実感して、
自社製品の理解度UPという工夫も◎

●座談会
…生徒との交流・質問対応など

（生徒の声）
「全員の話に耳を傾けてくれたので、
社員の方が座談会の場を大切にしていることが伝わり、
自分も考えていることをしっかり話すことができた。」

社内見学

参加した生徒のアンケートで
最も好評の項目をご紹介！

●概要

実際に働いている社員の様子や、
オフィスの雰囲気を見学。事業紹介だけでなく、
会社全体で取り組んでいるイベントや
働き方の工夫など、幅広い内容を紹介。

生徒は実際の現場を見ることで、
企業が様々な課題解決に取り組んでいることを実感。
事前学習だけでは分からない新たな発見も多く、
企業の印象がとても変わったというプラスの意見が多数。

生徒の声「ここが良かった」

・車関係の仕事なので、黙々と働いていると思っていたが、実際社内の雰囲気は明るく、堅苦しい様子ではなかった。

・賞状がいくつもあり、SDGｓや地域活性に大きく貢献し、周りに認められている会社ということが分かった。

・植物や金魚など、オフィスが緑豊かですごく素敵で印象に残った。

・アルミホイールを作るだけでなく、地域との関わりやグローバル化も行っていることを知れて、今後の将来や学生生活にとても役立った。

魅力ポイント

Locus運営事務局
担当者から見た魅力をご紹介！

●生徒の緊張をほぐす空気作り

・入社歴の浅い若手社員が参加
・参加高校（浜松湖南高等学校）の卒業生で
実際に活躍中の社員を紹介
・入社理由、やりがいを伝える etc.

最初に社員から歩み寄って
話を進めていくことで
生徒も心を開きやすい雰囲気に◎

若手社員の入社理由は、
生徒にとってより身近に感じられるポイント！
生徒自身での落とし込みもしやすく
「将来の進路選択にとても役立った」という
生徒の声が多数♪

●企業の声：工夫したこと

生徒に内容がより伝わるよう、
言葉の表現や資料内容などは分かりやすさを意識。

一方的にならないよう生徒に問いかけたり、
発言の機会を作ったり、
全員が体験できる空間作りにも工夫。

●生徒の声：良かったこと

・ESGなど初めて聞く言葉を丁寧に説明してくれて、環境に対する取り組みや熱意を理解することができた。

・普段何気なく使っているものが多くの人の手を渡って届いていることを知り感動した。今後の進路選択の幅がとても広がった。

株式会社リキシステム
×
静岡県立浜松湖南高等学校

フィールドスタディ事例

株式会社マイナビ　Locus運営事務局

静岡県立浜松湖南高等学校

フィールドスタディ実施概要

実施日：2023年12月19日9時～12時

参加生徒数：1年生　約329名

参画企業数：31社

概要

●株式会社リキシステム様について

業種：ソフトウェア
従業員： 24名　※ 2023年12月時点

●フィールドスタディ概要

実施日：2023年12月19日
参加生徒数：8名
実施形式：企業訪問型
企業スタッフ数：6名
（メイン進行3名+座談会ゲスト2名+外部とのやり取り担当1名）

キーワード：IT・ものづくり

●今回フィールドスタディ受入を決めた理由

・社員の自社理解促進と自社のPR接点

高校生に説明することで、社員にとって自社理解を深める機会になればと思っている。そのため、弊社では毎年、研修の一環として新入社員にフィールドスタディの運営を任せている。

また、少子化も進む中で、就職の対象が段々と大学生から高校生まで広がっていっている。フィールドスタディは市内の高校生に少しでも自社のことを知ってもらう機会にもなるため、フィールドスタディの受入を決めた。

実施スケジュール

自己紹介 アイスブレイク 30分	企業説明 40分	意見交流会 30分	休憩 10分	座談会 30分	まとめ 10分

実施内容詳細

●自己紹介/アイスブレイク

…進行担当社員の自己紹介（1分×3名）
市販のボードゲームを使用したアイスブレイク
（生徒4名+社員1名のグループ×2で実施）

グループに分かれ、
アイスブレイクに取り組む生徒
→

市販のボードゲームを使用し社員の皆さんと
生徒で一緒に簡単なゲームを行うことで、
距離が縮まり、生徒も緊張が解けた様子◎

●企業紹介

…業界の説明から、企業の業務内容の説明、
社員の会社に対する印象などのアンケート結果
まで、幅広く説明。

IT業界は生徒に馴染みがないため、
出来るだけ分かりやすく、生徒も理解しやすい身
近な例を用いて説明していた。
（システム構築を餅つきに例えて説明など）

社員アンケート結果を公開し、「会社」ではなく
「人」に焦点を当てるパートを作ることで、生徒たち
も自分が将来働くとしたら・・・というイメージを思い
描きながら話を聞いていた◎

アンケート内容：入社理由、学生時代にやっておいてよかったこ
と、会社の魅力、仕事で不安だったこと　など

意見交流会・座談会について

●意見交流会

…企業側がテーマに設定した課題の中から1つ選択し、課題に対する解決策をグループで考える

意見交流会の難易度を下げるため、テーマとなる課題を提示、さらに企業担当者も各グループ1名サポートに入っていた◎

意見交流会で出た意見に対して、アイデアの斬新さ、実現可能性など、必ず褒めていたため、生徒の学習意欲も高まった様子◎

グループワークに取り組む生徒たちの様子　→

●座談会

…進行担当の若手社員に加え、社長・部長が登場し、生徒からの質問に回答

高校生にとって、企業の役職者に直接お話を聞く機会はないので、真剣な表情でお話を聞いていた◎

生徒の声
「会社を経営している人物に直接質問する経験は、今までなかったので、
非常に勉強になった。」

座談会で真剣にお話を聞いている生徒たちの様子　→

魅力ポイント

Locus運営事務局
担当者から見た魅力をご紹介！

●若手社員中心の高校生に寄り添ったフィールドスタディ

・若手社員3名がフィールドスタディの運営及び進行を担当（新入社員研修として活用）

・担当者が生徒と比較的年齢が近いため、実施内容が生徒の目線に立って考えられていた
※例：アイスブレイクでボードゲームを使用
会社紹介で社員アンケートの結果を取り入れる、など

・アイスブレイクやグループワークに社員と生徒が一緒に取り組むことで、心理的距離が縮まり、生徒が発言しやすい空気が生まれた

・若手社員だけでなく、座談会では社長・部長も登場し、様々な立場の人から話が聞ける機会があった

●企業の声

業界知識のない高校生も理解できるように、イメージのつきやすいたとえ話を用いて説明をすることを意識した。
また、一方的に話を聞いているだけだと高校生も集中しづらいと思うので、質問を定期的に投げかけたり、高校生が興味を持って参加できるような内容を考えたり、上手く巻き込むことを意識した。

スライドの準備やリハーサルなど時間を使って準備をするのは大変だったが、Locusを通じて仕事での接点が少ない社員同士もコミュニケーションを取る機会が生まれ、年の近い人同士がどのような考え方でどのような仕事をしているのかを知ることができたのが企業にとってもプラスになった。